

市長記者会見記録

日時：2024年12月20日（金）14時00分～14時23分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：川崎市への引越しはスマホでできます！【総務企画局】

<内容>

【議題】

《川崎市への引越しはスマホでできます！》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。

まず、本日の議題は「川崎市への引越しはスマホでできます！」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いいたします。「川崎市への引越しはスマホでできます！」ということで、令和7年3月以降、川崎市で電気、ガス、水道等の生活関連のサービスが、スマホから一括して申請できるようになります。その取組について御説明させていただきます。

川崎市へ転入される場合、民間の引っ越しポータルサイト「引越れんらく帳」から、川崎市で使用する電気、ガス、水道や、NHK、一部の新聞、インターネット、固定電話等のサービスについて、利用開始、休止や住所変更などの手続をスマートフォンから一括して申請できるようになります。このサービスで、引っ越し前の自治体に提出する転出届も、同様に一括して申請できます。

また、皆さんがサービスを分かりやすく使えるよう、市ホームページから「引越れんらく帳」にアクセスできるようになります。こうして生活関連サービスと転出届のオンライン一括申請を官民が連携して取り組むのは、全国でも先進的な取組となります。

また、令和7年度以降、新たなサービスの追加に向けて取り組みます。このような引っ越しでのオンライン一括申請を活用して、転入者の新生活が便利になり、また、転入者に川崎市の魅力が伝わるよう、市内事業者への呼びかけなどを行ってまいります。

これらの取組の実現に向けて、本日、株式会社NTTデータと連携協定を締結いたしましたので、併せてお知らせいたします。行政手続の原則オンライン化を実施している川崎市として、こうした取組によりまして、市民サービスの向上やオンライン申請率の向上による区役所窓口の混雑緩和につながることを期待しております。

詳細は、2月以降に改めてお知らせさせていただきます。

説明は以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。

なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【日経（幹事社）】 日経新聞です。今御説明いただいた、川崎市への引っ越しはスマホでについてお伺いします。

確かに市民の方は非常に便利になると思うんですけども、この区役所窓口の混雑緩和によって、市職員の方の負担の緩和というのはどのくらいを見込んでおられますでしょうか。数値的なお話は非常に難しいと思うんですけども。

あと、こうやってスマホでできること、市民が行政手続できることをさらに増やしていくお考えがあるかどうか。この2点をお伺いします。

【市長】 まず、区役所がどのくらい混雑が緩和されるかというのは、実際にどのくらいの方が利用されるというのが、まだ想定の見込みがちょっと分からないので、一概に申し上げられないんですけども、間違いなく混雑緩和は職員の負担軽減にはつながると思っておりますので、そういう意味では、みんながハッピーな形になるのではないかと考えております。

それから、これは国も挙げて、コネクテッド・ワンストップという形で、官民の基盤を一緒にしていく取組というのは、まだまだ緒に就いたばかりというか、まさにここからなので、これからいろんなサービスをここから発展させていきたいなと思っております。

【日経（幹事社）】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 関連で。あまり先走ってもしようがないのかもしれないですけども、便利になるということは、同時に、特にオンラインの場合は多様な攻撃にさらされる可能性がある、サイバーアタック等ですね。その辺の対処というのは、現時点の見立てでは十分であるというような評価なのでしょうか。幹事社、毎日新聞です。

【市長】 ちょっと事務方からでもよろしいでしょうか。

【毎日（幹事社）】 はい、もちろん。

【総務企画局】 デジタル化施策推進室担当課長です。今、セキュリティー対策のお話でしたが、このシステムにつきましては、デジタル庁が構築している国のびったりサービスに接続して、そこから転出届を各自治体に送信するという仕組みになっておりまして、びったりサービスに接続する段階で必要なセキュリティーをデジタル庁は求めていますので、セキュリティー対策については十分なものと考えております。

以上でございます。

【毎日（幹事社）】 そこは国の責任であるという理解でいいんですかね。

【総務企画局】 その接続……。

【毎日（幹事社）】 あと、何サービスとおっしゃいました？ ちょっとよく聞こえなかったの。

【総務企画局】 びったりサービスという、マイナポータルから……。

【市長】 びったりサービス。

【毎日（幹事社）】 びったりサービス、ああ。

【総務企画局】 はい、びったりサービスというのがございます。そこにつきましては、そ

の接続に関して、国も当然セキュリティーを求めていますので、そのセキュリティーを十分満たしているものと考えております。

会社の独自の対策についても、当然、必要なセキュリティー対策を取っているところを確認しているところでございます。

以上でございます。

【毎日（幹事社）】 ありがとうございます。

【産経（幹事社）】 じゃ、すいません、産経新聞です。よろしくお願いします。

そうすると、転入届は窓口に行かなければいけないということで、それ以外の主な引っ越しに伴う手続というのは、大体スマホでできるようになるということですか。

【市長】 そうですね。転入届は、どうしても法律上やらなくちゃいけない、定められているものですので、そこは窓口に行っていたかなくちゃいけないんですけども、それ以外の生活関連はここで済むという形になります。

【産経（幹事社）】 分かりました。あと、先ほど全国でも先進的な取組だというお話がありましたけれども、こういうサービスをやっている自治体というのは、ほかにはないということなんですか。

【市長】 2自治体あると聞いています。札幌市と、あともう一つはどこでしたっけ。

【総務企画局】 石川県加賀市と札幌市でございます。

【市長】 加賀市と札幌市はやっている。

【産経（幹事社）】 それはもう既に始めているということですよ。

【市長】 はい。

【産経（幹事社）】 同じ、NTTデータと組んでということですか。

【市長】 そういことです。はい、そうです。

【産経（幹事社）】 ちょっと細かいことで恐縮なんですけど、一括してというのは、アプリが何かで選択して1回ボタンを押せばいいという、そんな感じで。

【市長】 はい、そういうことです。最初に個人情報、住所だとか名前とかを入れていただいて、そののやつが全てに反映されていくという形で、ぽちっと押していくという、いろんな各種サービスが並んでいまして、そこで全部、プルダウンというんでしょうか、やっていって、できるということです。

【産経（幹事社）】 分かりました。どうもありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 じゃ、各社さん。

【東京】 東京新聞です。先ほど産経さんからアプリでというお話があったんですけども、ブラウザなのかアプリなのかはどうなんでしょうか。事務方にお問い合わせきたらと思うんですが。

【総務企画局】 ブラウザになります。

【東京】 あと、こちらの事業費を教えてください。

【総務企画局】 こちらについては、市のほうは広報協力をするということで、費用負担は

発生しておりません。

川崎市の上下水道局が参加するに当たっては、必要な利用料を払うという形になっております。

【東京】 あと、すごく下品なことを聞いてあれなんですけれども、「一部の新聞」はどこ新聞なのかを教えていただけるとありがたいのですが。

【市長】 朝日新聞さんと毎日新聞さんだというふうに伺っています。

【朝日】 これはどうしてそうなのでしょう。どうして2紙だけなのでしょう。

【総務企画局】 こちらは民間サービスを利用していますので、民間さん同士の中で決まったものと捉えております。

【市長】 そういった意味では、いろんな企業の皆様と一緒に共有していくと、より市民が便利になってくるということなので、呼びかけをしていきたいなということです。

【司会】 ほかに御質問はよろしいでしょうか。

では、議題は以上というところで、引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。

進行につきましては、幹事社様、改めてよろしくお願いいたします。

【市政一般】

《今年の漢字について》

【毎日（幹事社）】 では、例年聞いている質問だと思いますが、今年を一字で表すならば、どんな漢字になりますか。すいません、お願いします。

【市長】 じゃ、出してもよろしいでしょうか。こちらです。もうこれしかないでしょうという。

【毎日（幹事社）】 この心は、言うまでもなく市制100年。

【市長】 市制100周年ということと同時に、やっぱり100周年を通じて、百花繚乱じゃありませんけれども、本当に多彩な方々、市民の皆さんが多彩なものに加わっていただいて、100年をみんなで祝うことができたということでもありますし、百人百様というふうに言われるように、川崎市の、何というか、大切にしている多様性ということも大いに感じた1年だったので、この言葉を選びました。

【毎日（幹事社）】 ちなみに、ほかの候補なんかは、全く今年はなし。

【市長】 全く、ほかのは出てこないぐらいだったですね。

【毎日（幹事社）】 分かりました。

幹事社は以上です。各社、どうぞ。

【市長】 どうぞ。

《今年の印象的な出来事について》

【t v k】 t v kです。よろしくお願いします。

【市長】 よろしくお願いします。

【t v k】 中でも、いろいろなことがあったと思うんですけれども、市長が一番、上げる

なら、思い出深いものというのは何でしょうか。

【市長】 そうですね、今年はいろんなのがありましたけれども、1つと言われても難しいんですけども、佳子内親王殿下が川崎市においでくださいました緑化祭もそうですし、それから、やっぱり100周年の記念式典というので、老若男女の合唱というのが、混声オーケストラというのが非常に、自分で言っちゃうのもあれですけども、感動的なシーンを聴かせて、見せていただいたなと思っていて、あれは思い出に残ると思います。

もう一つ加えるとすれば、やっぱり今年は元旦から大きな災害でしたので、そこから始まった1年でありましたけれども、川崎市としても、およそ4,000人、延べ4,000人の職員を派遣したり、現在も現地に行っている職員がいますが、まだまだちょっと長い、年を越えて、復興にしっかりと努めていきたいと思っております。

《来年の意気込み等について》

【t v k】 ありがとうございます。今年最後の会見ということで、ちょっと早いのですが、来年の意気込みを伺ってもよろしいでしょうか。

【市長】 そうですね、101年目になりますので、また新たに、この100年またぎのところで何度か申し上げたと思うんですけども、非常に、川崎の第二創業のような、産業面では、もう第二創業という形になってくると。新産業を生み出していくような年になると思いますし、また、2025年というのは、国で言うと地域包括ケアのターゲットイヤーであります。団塊世代が後期高齢者になる節目の年であります。

川崎ではまだその先になるわけですけども、この10年、一番大切な施策は何だといってきたら、地域包括ケアをちゃんとやるということをやってきましたので、これからも取組をさらに加速させていきたいと思っておりますけれども、1つのターゲットイヤーとしてはしっかり総括しながら、前にもっと進めていかなくちゃいけない1年になるのではないかと思っております。

【t v k】 あと、来年は川崎市長選もあるかと思うんですけども、そこに向けて、今決まっていることはちょっと難しいかもしれないんですが、思いなどがあれば。

【市長】 いや、決まっていることは何もないのですが、来年は本当に選挙イヤーですね。

参議院もあるし、横浜もあり、川崎もありということで、神奈川は結構いろんなことがあるのではないかと考えていますので、国政もいろいろ、さきの総選挙からいろんな動きが出てきているので、政治がどうなっていくのかというのが、海外もそうですけれども、非常に変化のある年になってくるんじゃないかと思っていて、その中で、市民の暮らしをしっかりと守っていくことに注力していきたいと思っております。

【t v k】 ありがとうございます。

《ヘイトスピーチへの対応等について》

【毎日（幹事社）】 すいません、毎日です。これまで累次の質問で、また市長のお話も明確に伺っているヘイトスピーチの件なんですけど、直近でまた街頭宣伝があり、カウンターの人が出てというような事例があって、なおかつ、今回来た人の中にはかなり露骨な、かぎ括

弧ですが、「外国人は出ていけ」系の話をしてしまった人がいて、かなり音がいろいろ大きかったんで、どれだけの人が聞いているかという話はありませんが、さはさりながら、どうも明確にそういうことを言ったということもあり、従来、川崎はそういうことを許さないんだということで、条例もつくり、ガバメントスピーチもされてきたわけですが、またそういう動きというものが続いてしまう。どうも嫌な発言をする人がいるという状況があるので、改めて、お立場といいますか姿勢を示していただきたいのと、そのコメントに関してどういうアプローチを取られるのかを可能な範囲で教えてください。以上です。

【市長】 個別具体的な言動がこの条例に規定しているところに該当するか否かについては、当該の言動の背景ですとか前後の文脈などを総合的に考慮して、慎重に判断する必要があります。

現時点においては所管部局で調査中であると聞いておりますので、少し時間がかかるかと思いますが、しっかりやっていきたいと思っております。

【毎日（幹事社）】 市のトータルの姿勢としては、これまでと変わりなく、ヘイトスピーチであるとか差別であるとか排外主義には、断固として。

【市長】 断固として許さないということです。

【毎日（幹事社）】 許さないという姿勢を維持するということですね。ありがとうございます。

《市立中学校で起きた事故事案への対応等について》

【NHK】 NHKです。すいません、市長や市長部局の皆さんにお伺いする内容ではなく、もしかしたら教育委員会の方にお伺いするのが適切な案件かも分からないんですが、議会でも出ていた、不適切な指導で結果として大けがを負ってしまったというケースに関して、この辺りの因果関係であるとか、今後の対策であるとか、そうしたところの見通しや方針がありましたら、御対応いただける方、お願いできますでしょうか。

【市長】 こちらは教育委員会からでもよろしいでしょうか。

【NHK】 はい。

【教育委員会事務局】 教育委員会の学校教育部指導課長でございます。今回の件の、不適切な指導と生徒さんがけがをしたことにつきましては、因果関係といいますか、こちらにつきまして、人権オンブズパーソンの報告書、こちらで、部活動における夏休みの宿題の確認の在り方や、それまでの生徒さんに対する生徒指導の在り方、及び、そのほか申立て生徒さんの取り巻く環境も少なからず影響を及ぼしているものと考えておりまして、教員による不適切な指導が少なからず影響したものと考えております。

以上でございます。

【NHK】 それも踏まえて、今後の在り方であるとか、あるいは生徒や保護者の方への謝罪であるとか、どういうステップがあるのか。あるいは、もう既に終えているのか。その辺りの現在地を教えてください。

【教育委員会事務局】 同じく、教育委員会事務局学校教育部指導課の担当課長でございます。

す。現在も、まだ保険のことですとか続いている部分もありますので、そちらも丁寧に対応してまいりたいと思いますし、当該の学校につきましては、教育委員会としましては、まだ指導ですとか研修ですとか、そういったものを続けてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【NHK】 ありがとうございます。

《中村憲剛氏の引退試合について》

【東京】 話が替わってしまって申し訳ないんですけど、先週末の中村憲剛さんの引退試合は、市長も行かれたんでしたっけ。

【市長】 いや、僕、行けなかったんです。

【東京】 大きな節目でもあり、中村さんと市長はこれまでも関わりがいろいろあったと思うんですけども、市長としては、今回の引退試合に対してどのような思いというか、実際は行かれていないので、なかなか、行きたかったという思いはもちろんおありかと思うんですけども、どのように受け止められていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 個人的にはものすごく行きたかったのですが、立ち会えなかったのが非常に残念でありました。憲剛さんは、現役のときも今も変わらず、やっぱり川崎の宝だと思っていますので、一つの節目というのを、みんなで引退試合という形で節目を迎えられたこと自体はすごくよかったなと思っていますし、引退のときは声を出せないタイミングだったので、今回、大声援の中で、ちょっと懐かしのプレーヤーも含めて、みんなでそういう引退試合ができたというのはすごくよかったと思います。本当にいろんな関係者の皆さんにかなり努力していただいたので、そこも含めて感謝申し上げたいと思います。

【東京】 今回、選挙カーのような宣伝カーに乗られたり、選挙ビラみたいなビラを配られたりということで、Xなんかだと市長選に出てほしいとか市議になってほしいみたいな声も出ていますけれども、実際に政治の世界へ行かれるかどうかは御本人の判断かとは思いますが、これから、ずっと川崎でやってこられた選手ですので、川崎市のためにこういう活動をしてほしいとか、何か思いがあったりはしますでしょうか。

【市長】 いや、やっぱりこれからも川崎に深く関わり続けていただきたいというのは、今までもこれからも期待するところですし、僕も応援演説の依頼が来たんですけども、予定が合わず、残念ながら演説に行けなかったんですが、気持ちとしてはやりたかったと。

【東京】 あの選挙カーも。

【市長】 ええ。

【東京】 すいません、ありがとうございました。

【司会】 御質問のほうはよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当